

～平成23年度 もっと現場を知る！職員短期派遣研修～
NPO法人まごころサービス松江センター 研修活動報告書

報告者 道路建設課 伊藤由貴子

■研修日程

7月13・27日／8月17日／9月14・21・28日／10月5・12日／11月16・19日の10日間

■NPO法人まごころサービス松江センターについて

～施設概要～

- ・平成4年3月29日設立
『愛・技術・忍耐』の理念の下、高齢者や障害を持った方が地域の中で自分らしい暮らしができるように在宅福祉サービスをスタート。(有償ボランティア)
- ・平成11年9月3日 法人格取得
- ・平成14年2月1日 グループホーム開設(1カ所目)
- ・平成15年4月1日 ヘルパーステーション開設(訪問介護)
- ・平成17年1月25日 グループホーム開設(2カ所目)

～活動内容～

- ・有償ボランティアサービス
- ・訪問介護サービス
- ・認知症対応型生活共同介護
(グループホーム、2カ所)
- ・子育てサポート事業
- ・広報活動(機関誌発行、年4回)
- ・バザー開催(年1回)

■研修活動内容について

～定例会の参加～

毎月1回行われる定例会に5回参加しました。参加者は、理事長の他に協力会員の方8名です。また、定例会では理事長から毎月の運営報告等をされています。

今回参加した定例会では、主に記念誌の編集作業と20周年記念式典について話し合いました。皆さん長年お付き合いをされている間柄なので、和気藹々とした雰囲気の中で楽しく話し合いを進めることができました。



定例会(午後1時半から2時間程度)

～20周年記念誌作成作業～

10日間のうち、定例会に参加するのを含めて約8割が記念誌作成作業でした。記念誌は、協力会員の方が1年前から写真選びや文章の作成をされており、それをこちらでパソコンへ取り込む作業をしました。20年間の行事や活動状況等が記載されています。簡単なパソコン入力でしたが、通常業務が忙しいため記念誌作成ができない状況だったので、とても感謝していただきました。



20周年記念誌『あゆみ』(150部配布予定)

(Wordで作成、全カラー21ページ)

～20周年記念式典～

最終日は、今まで理事長や協力会員の方々と打ち合わせしてきたことの集大成の場でした。会場準備や来場者の接客は主に協力会員の方が行われ、司会進行等は事務所の方が担当されました。こちらではそれを松江市職員（研修）の方と一緒に補助しました。作業としては、会場設営・お茶の片付け等です。

参加者は約70名の方で、参加者全員に20周年記念誌の『あゆみ』を配布されました。

20周年記念式典に参加されるたくさんの方々が抱き合って再会を喜ぶ姿や熱心に講演会を聴かれる姿を拝見して、NPO法人まごころサービス松江センターの存在の大きさと必要性を強く感じました。またそれと同時に、こちらのイベントに参加できた喜びも感じることができました。



20周年記念式典

～タイムスケジュール～

9:30～10:50	会場準備（看板取付作業、音響機器・配席確認等）
12:20～13:00	会場最終チェック
13:30～15:40	20周年記念式典・講演会
15:40～16:00	式典会場片付け・交流会
	会場準備（音響機器）
18:30～18:45	交流会片付け

～その他（訪問介護）～

この10日間のうち、わずか1時間だけでしたが、ヘルパーさんに同行して一人暮らしの高齢者のお宅を訪問させて頂きました。ヘルパーさんは身体の不自由な高齢者の方のシーツの交換、空気の入れ換え、ゴミ出し等、手際よく身の回りのお世話をされていました。お世話をされる際には、高齢者の方が従来なされていたやり方で片付けをするようにされています。高齢者のライフスタイルを尊重ことを常に頭において訪問されています。こちらには、高齢者の方の話し相手になって欲しいという依頼があったので、約40分お話をさせて頂きました。高齢者の方にとって、生活環境を整え、話し相手になることで孤独であるという寂しさを少しでも和らげるというヘルパーさんの役割はとても大きいものと感じる訪問でした。

■研修を終えての感想

設立されて20周年という記念すべき事業に参加し、それを通して福祉に関する様々なことを勉強させて頂きました。研修を受けている間にとっても印象深かったことは、記念式典に係る経費について皆さんで知恵を振り絞りコスト軽減に努められていたことです。手作りできるものは皆で協力して作る。これは運営の厳しさを覗わせるものでしたが、作ることを苦とせず、完成したものを皆さんで見ると喜び褒め合う姿には幾度か励まされました。有償ボランティアサービスの料金をあげれば運営は楽になるだろうと思われそうですが、利用者（高齢者）の負担を考えると料金をあげることは踏み切れないそうです。NPO法人まごころサービス松江センターに勤務されている方々が高いボランティア精神を持ち、周囲の方々と協同し支え合っているからこそNPO法人が活動していけるのだと感じました。

高齢化率が高い島根県において、今後もこちらのような介護福祉施設の需要は確実に伸び、県民の方々にとってはなくてはならない存在であることは間違いありません。『いつまでも自分らしく生活したい』そういう思いは誰もが持っているはずで。そういった思いを持つ県民の方々の願いを叶えるため、また高齢化社会を支えていくためにも、こちらのようなNPO法人の活動が今後も続けていけるよう行政側が支援をしていく必要があると強く感じました。